

学校研究計画

1. 研究主題

「自力解決力のある子どもたちの育成」

～ 「理科」「生活科」におけるPISA型読解力を育成する授業づくり～

2. 主題設定の理由

本校では学校教育目標で示す「夢をもって生きる子どもたちの育成」のため、学校研究での目指す子ども像を「自力解決力のある子」と設定し研究を進めてきた。特に自力解決力育成のために必要な「資質・能力」、「論理的思考力」、「かかわる力」という3つの力の育成に重点を置いて、実践・研究を積み上げてきた。

2007年度からはそれらの研究の成果を踏まえ、「PISA型読解力を育成する授業モデル」の実践を研究の柱としてきている。それは、本校が追究してきた「自力解決力」が「PISA型読解力」と一致していると考えられること、また、PISA型読解力を育成する授業モデルを実践していくことで、本校が重点を置いてきた「資質・能力」、「論理的思考力」、「かかわる力」という自力解決力を支える3つの力が総合的に育成されていくと考えられたからである。

理科、生活科を通して子どもたちの自力解決力を育成し、社会の中で夢とその実現への自信をもって生きる子どもたちに育ってほしいと願っている。

3. 研究の構想

(1) めざす子ども像

「自力解決力のある子」

自ら課題を見だし、追究するとともに仲間と交流する中で「生きた知」を創り出していく子

「生きた知」とは

自ら見いだした課題を、自らの力で追究し、その結果獲得された知識で、かつ、他の場面（学習・生活）に生かすことのできるものを「生きた知」と定義する

理科でめざす自力解決力のある子

自然の事物・現象に自ら働きかけ、見通しを持った実験・観察を通して課題を追究し、事象の性質や規則性を実感するとともに、仲間との交流を通して、「生きた知」を創り出していく子

生活科でめざす自力解決力のある子

身近な人々、社会、自然と直接関わることを通して、自分の思いや願いを実現していく中で、人々、社会、自然や自分自身に気づき、その良さを実感するとともに仲間と交流しながら自分の生活を創り出していく子

(2) 研究の重点とねらい

自力解決力の育成、特に、熟考・評価のプロセスの深まりを意識して、今年度の研究の重点を理科、生活科においてそれぞれ設定した。

理科の重点①

問題解決学習の過程（特に「熟考・評価」場面）において、得られた知を別の視点から見つめ直したり、他の事象に当てはめて再考したりする場面【ほんとかな?】を持つ

ア. 【ほんとかな?】のねらい

問題解決学習の過程を経て創り上げられた知は、活用されてこそ「生きた知」となる。そこで、今年度は、学習過程で得られた知をもう一度見つめ直し、「ほかのものにもそのきまりは当てはまるはずだ」など得られた知をさらに深めたり広げたりする場面のある授業の構成をする。そうすることで、知は活用されてこそ意味のあるものとなるという意識の高まりや、「熟考・評価」のプロセスの深まりにつながっていくと考えている。

理科の重点②

問題解決学習の過程に必要な表現力の育成（話型指導・ノート指導）をする

ア. 話型指導のねらい

○子どもの思考力を高めるための話型指導

自分の考えを的確に伝えたり、相手の意図を正確に聞き取ったりするためには、話し方が重要である。授業の流れに沿った話し方を意識することで、お互いの考えが深まり、論理的思考がうまれると考える。

イ. ノート指導のねらい

○問題解決力を向上させる手段としてのノート指導

問題解決学習の過程を通して、問題解決力は身につけていく。その過程においては言葉による表現に加え、図や表、グラフやイメージ図等いろいろな方法で自分の考えを表現していくことによって、より自分の考えが明らかになったり、追究の過程が整理されたりしていく。問題解決学習を支えるためのノート指導を大切にしていきたい。

○教師が見通しを持ち、評価を支えるためのノート指導

ノートというゴールをイメージすることによって、単元構成、授業構成の力を高めることができる。また、ノートは自力解決力という目に見えにくい力が表出される側面がある。評価のためにもノートを活用していきたい。

そのために、指導案作成に当たっては、ノートのモデル（ノート案）を示し、教師が授業を通して子どもたちにどんなノートを書かせたいかを明らかにして実践をしていく。

生活科の重点①

【見つける、比べる、たとえる】などの学習活動を充実させる

ア. 【見つける、比べる、たとえる】のねらい

【見つける、比べる、たとえる】などの多様な学習活動をくりかえすことによって

子どもたちの気付きはより明確になったり、共有化され関連づけられたりして「納得ある気付き」「関連づけられた気付き」「自分自身への気付き」へとその質が高められていくと考えている。

また、そのような生活科での「気付きの質の高まり」が、自然認識の力や科学的な見方や考え方といった、理科における自力解決力を支える力につながっていくものと考えている。

生活科の重点②

【見つける、比べる、たとえる】活動に必要な表現力の育成（話型指導・ノート指導）をする

ア. 話型のねらい

○子どもたちが【見つける、比べる、たとえる】ための話型指導

一人一人の子どもが【見つける、比べる、たとえる】ことによって気付きの質を高めていくことができる。そのために必要となる話型の指導を行う。その話型を意識的に身につけていくことによって、子どもたちの交流が深まり、さらに気付きの質が高まるようにしていきたい。

イ. ノート指導のねらい

○【見つける、比べる、たとえる】ためのノート指導

子どもたちの願いを生かしつつ、【見つける、比べる、たとえる】という活動が引き出されるようなノートやワークシートの工夫をする。

○教師のためのノート案作り

子どもたちが対象からどのような直感的な気付きを得るのか、また、その直感的気付きの質をどのように高めていくのかという見通しを持つために、ノートやワークシートを子どもの立場で書いてみることは有効な手段である。

また、ノートには、気付きという目に見えにくい力が表出される側面がある。評価のためにもノートを活用していきたい。

そこで指導案作成に当たっては、ノートのモデル（ノート案）を作成した上で授業実践に取り組む。